

# みんなで話そう「町の将来」



神崎町議会議長  
寶田久元

新年明けましておめでとうございます。皆さまにはさぞかし清々しい新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は町民の皆さまのご支援、ご協力によりまして、議員全員が全力で町政発展のために、議員活動を行うことが出来たことを厚く感謝申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、政治的にも経済的にもその他色々な面において、激動の一年間であったのではないのでしょうか。経済面では、米国のサブプライムローンに端を発しリーマンブラザース社の倒産で世界的な金融危機・金融不安が引き起こされ、世界経済は停滞を余儀なくされており、先行きの不透明感が強く深刻

度を増しています。その影響で日本でも株価の大幅な下落に円高も加わり、企業の倒産、減産、従業員の解雇、新卒者の内定取り消し、失業者が増えて、日本経済も未曾有の状態に陥っています。

また、食品の品質偽装問題、中国製食材から事故米と食の安心安全を揺るがす事態に発展しました。一時的とはいえ燃料価格の高騰に伴う物価高にも庶民は悩まされました。

政治面を見ますと米国の大統領選挙では、共和党から民主党にチェンジして、しかも初の黒人大統領のオバマ氏が誕生し、アメリカ国民の期待を一身に集めるとともに、世界中の注目にもなりました。対日本外交もどう変わるか関心があります。一方日本では、一昨年の参議院選で与野党が逆転して、衆・参のねじれ状態が続いており、衆議院で可決しても参議院で否決という法案がいくつもあって、福田総理は耐え切れず安部総理と同じく一年で辞職して

しまいました。国民の審判も受けずに三人目の麻生総理が誕生してすぐに総選挙かと思わせましたが、経済対策を優先し、選挙は先送りして、景気対策の一環として2兆円の補正予算を組み、定額給付金で国民一人1万2千円をバラまきする政策を取って人気を上げようとしているが、麻生内閣また自民党は逆に支持率が低下してしまい、いつ解散総選挙になるのか分からず政局は大混乱が続いています。

このような中、我神崎町においては町民運動会を始めいきいきフェスタバル、文化祭など、多くのイベントが町民の皆さまの参加により盛大に行われました。懸案であった田中踏切の拡張も完成、武田古原線二期も開通の目処が立ち、道路整備も次の段階に進むことになり、今後は田中踏切前後の拡張と並木側交差点の改良、四季の丘、消防下総分署の間の整備が望まれます。また、町の発展に欠かせないハイウェイオアシス（道の駅）構想も早期実現

に向けて更なる進展が期待されています。しかしながら道路特定財源の一般財源化と経済の不透明感もあり、国県との連携を密にして取り組んで行かなければならないと思います。

農業関係は、相変わらず生産物の価格低迷が続いて、肥料・燃料始め生産資材の値上がりで、農家・営農組合の経営は苦しくなっていますが、明るい話題は「農地・水・環境保全向上対策事業」を行う集落が年々増えてきたことで、将来にわたって農業・農村の基盤を支え環境の保全が図れることと思います。

しかし、町民の最大の関心は「合併問題」だと思います。本町は平成の大合併第1ステージに乗れず千葉県一人口が少なく財政規模の最も小さい町となりました。自主財源に乏しく交付税や補助金に頼らざるを得ない上に少子高齢化はどんどん進み、介護保険や後期高齢者医療に対する社会保障費は年々増すばかりで、末端市町村の財政負担

は大きく将来的に合併は避けて通れないと思います。第2ステージで千葉県が示した構想、成田市を中心とした2市4町（成田市・富里市・栄町・多古町・芝山町・神崎町）の合併は、成田市の事情で白紙になってしまいました。今後（総務省）は市町村合併を強力には推進しない方針を示し、合併は国民の自主性にまかせるとのことです。第2ステージの期限は平成22年3月までです。

本町の合併については、今年が正念場だと思えます。新年を迎え神崎町の将来のあり方について、5年から10年先の財政シミュレーションなどの資料を基に、町民を挙げて真剣に話し合っていく必要があります。「合併問題」は新年にあたり本町にとって今年最大のテーマだと思えます。

最後に本年も町議会をよろしくお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年の始めにあたってのご挨拶といたします。

本町の合併については、今年が正念場だと思えます。新年を迎え神崎町の将来のあり方について、5年から10年先の財政シミュレーションなどの資料を基に、町民を挙げて真剣に話し合っていく必要があります。「合併問題」は新年にあたり本町にとって今年最大のテーマだと思えます。